

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2026 年 10 月

第 150 号

主な予定

10 月 16 日 (金)

10:15~11:40

千葉シニア自然大学

11 月 6 日 (金)

9:00~12:00

アドバイザー会議

於：柏区画整理事務所

『ラコルタ縁日：柏にあるヒミツの森を知っているか！？2026』に参加して

中野 裕子

■開催日時：2026 年 8 月 30 日 日曜日 10:00~15:00

■開催場所：ラコルタ柏（教育福祉会館）4 階 創作室 2

■天候：曇り

■当 NPO 会場 来場者推計：240~360 名

■当 NPO スタッフ：13 名

■当 NPO 会場 イベント内容

□昆虫標本の展示

□顕微鏡での観察（虫、鳥の羽、植物など）

□生体昆虫との触れあい（カブトムシ、クワガタムシ）

□こんぶくろ池に生息する生物の写真展示（虫、鳥、植物など）

□こんぶくろ池に生息する生物のスライドショー

□アートワークショップ『ひらひら ちょうちょう』

『ラコルタ縁日』とは、夏休み期間にラコルタ柏で開催される、主に子どもを対象としたイベントです。毎年、様々な団体が参加し、ライブショーやワークショップ、多彩な屋台が並び、さながら縁日のような活気あふれる盛りだくさんな内容となっています。

当 NPO は 2024 年より参加しており、今年で 3 回目を迎えました。昨年に引き続き、昆虫標本の展示、顕微鏡観察、生体観察は子どもから大人まで大人気でした。今回は身長の高い子ども用に折りたたみ式の踏み台を準備したことも功を奏し、より多くの来場者にじっくりと観察してもらうことができました。



新たな試みとして、柏市社会福祉協議会よりプロジェクターとスクリーンをお借りしてスライドショーを上映しました。展示やワークショップの都合上、照明を落とすことができず映像の鮮明さには課題が残ったものの、当NPOの活動を体感していただく一助となりました。

また、壁面への直接掲示禁止という制約に対しては、会員の横川氏のアイデアにより、ロッカーに断熱材を引っかけて写真を貼ることで無事に対応することができました。

本イベントにおいて、私は主にアートワークショップを担当いたしましたので、以下にその詳細を報告いたします。

アートワークショップ『ひらひら ちょうちょう』

■材料と準備（約60人分）

□蝶

1. 羽：厚紙（9色）を蝶の形に切り取る
2. 触角：水引を約10cmに切り、両端に結び目を作る。半分に折って1に接着
3. 胴体：毛糸を約8cmに切る。結び目で、頭部、胸部、腹部を作り、2に接着
4. 強力両面テープを長さ約3cm×幅約5mmに切り、3の裏面に貼る

□洗濯ばさみ

□模様：シール、マスキングテープ、スタンプ、折り紙、水性ペン、色鉛筆など

□その他道具：スティック糊、セロハンテープ、子ども用ハサミなど

■作り方

1. ：あらかじめ準備した蝶型の色厚紙に、ペンや色鉛筆、シールを使って自由に模様を描く
2. ：1の裏面の両面テープ剥離紙を剥がし、洗濯ばさみに貼る
3. ：洗濯ばさみで服や帽子、鞆など好きな所に止まらせる



■当日の様子と次回への提案

アートワークショップのスペースは出入口の反対側（会場の奥）に配置いたしました。このレイアウトは、来場者がまず昆虫標本や顕微鏡観察、生体との触れ合いを体験し、そこで得た「なぜ蝶には模様があるのか」「雄雌や季節による違い」「どんな色や模様があるのか」といった観察の学びを、工作に落とし込む事を意図したものです。

正面のホワイトボードに展示した蝶の写真を参考にしながら模様を描く子、ラインストーンシールで華やかに飾る子、スタンプを活用して独自の模様に挑戦する子など、子どもたちの豊かな発想により、会場からは多種多様な蝶が羽ばたいていきました。出来上がった蝶を自分の胸や肩、髪に止まらせてうれしそうにポーズをとる姿に、私も笑みがこぼれました。

材料は多めに用意していたものの、途中で不足するほどの盛況ぶりとなりました。参加できずに泣いてしまった子に対し、急遽材料を集め対応して事なきを得ましたが、次回は入口に「満員御礼」のサインを掲示するなどの配慮が必要だと感じました。

独自の思いつきからスタートしたため、触角や胴体の素材選定・加工方法に試行錯誤しました。参加者の中心である未就学児～小学生が「安全・簡単」に作業でき、かつ「安価で準備効率が良い」仕様に仕上げる苦労がありました。次回は既存の例など参考にしながら、計画的に準備を進めたいと考えています。また、子どもでも楽しんで回答できるシール式のアンケートなどを導入すれば、より客観的な成果を次回に繋げられるのではないかと提案いたします。

本イベントを通じて、多くの方々がこんぶくろ池に生息する生き物に興味を持ち、環境保全への意識を高める契機となることを切に願っています。最後になりますが、事前の下見や調整、当日の早朝準備から撤収作業までご尽力いただいた会員の皆さまに、心より感謝申し上げます。



野鳥に優しいこんぶくろ池自然博物公園

横川 清

私がこんぶくろ池自然博物公園で野鳥撮影を始めて、約4年となりました。当公園との出会いは、中川副理事長から当公園にはオオタカが営巣に来ているとの話を聞いたことが始まりでした。猛禽類の頂点に存在するオオタカを是非見てみたいとの気持ちから当公園探鳥会に参加するようになり、参加して2年目に営巣には失敗しましたがオオタカを見ることができ、3年目には二羽の幼鳥の巣立ち、4年目の今年は一羽の幼鳥の巣立ち、エサを与える親タカを観察することができました。本当に幸運でした。オオタカは、各地で進む森林破壊が進行し営巣地が減少したことから一時絶滅危惧種になったこともありました。そんな中で当公園のように営巣林が破壊から守られ、営巣期間中は営巣場所に近い園路を閉鎖し人間との接触を無くすような優しい対応をしていることが功を奏しオオタカに安心感を持たれ毎年の営巣に繋がっているものと考えます。

そしてもう一つ、今私がこの森のすばらしさを感じるのは、この森にやってくる野鳥の種類の多さです。野鳥から見たこの森の魅力は、この森は自然が豊富で食の満足が得られることが大きな要因だと思います。

草木が茂り、隠れられる場所があり、草木の中にはたくさんのエサとなる昆虫やクモ等がいることがポイントだと考えます。

シジュウカラの親鳥が一回の繁殖でヒナたちに与える幼虫の数はおよそ五千匹必要とある書物に記載がありました。ものすごい数です。特にチョウやガの幼虫は栄養満点だそうです。当公園内で今年3月野鳥の巣箱10個の清掃をしたところ10個の内の5個で野鳥が営巣したと思われる鳥の羽の塊が見られました。単純計算となりますが、5個の巣箱×五千匹＝幼虫は二万五千匹必要になります。巣箱以外で営巣するシジュウカラもあり、ヤマガラやウグイス、エナガ等の営巣も考えられ、果たしてどれ位の幼虫が当公園では必要されるのかは把握しようも有りませんが、当公園では実際に相当量の幼虫が生まれ野鳥のエサになっているのは間違いのない事実だと思います。当公園では、昆虫観察会やクモの観察会等が催されますが実施できるのも昆虫やク

モが繁殖できる豊かな自然環境があるからだと考えられます。こんぶくろ池自然博物公園の自然の力を改めて感じるところです。

そしてもう一つは木の実です。毎年9月中旬頃になると第一近隣公園の駐車場に野鳥の写真家が集まってきます。目的はエゾビタキという野鳥がミズキという木の実を食べにやってくるからです。ミズキという木の実を好む野鳥はキビタキやルリビタキ等ヒタキ科と呼ばれる野鳥が多いようです。（参考図書：樹木図鑑、他）

以下に、こんぶくろ池自然博物公園で見られる樹木とこの果実を好む野鳥を纏めてみました。



オオタカ

- ① ミズキ：キビタキ・ルリビタキ・シジュウカラ
- ② エゴノキ：ヤマガラ・キジバト
- ③ ムクノキ：ムクドリ・シロハラ・アカハラ・ツグミ・ヒヨドリ・トラツグミ
- ④ コナラ等のドングリ：カケス・アカゲラ
- ⑤ エノキ：キジバト・オオルリ・キビタキ・ツグミ・シロハラ・シメ
- ⑥ ハンノキ：カワラヒワ
- ⑦ イヌシデ：カワラヒワ
- ⑧ マユミ：メジロ・コガラ
- ⑨ ヤマグワ；コゲラ・モズ・メジロ
- ⑩ ムラシキシキブ：コゲラ・モズ

この他にも、まだまだたくさんの木の実と野鳥の関係はありますが、この森には野鳥の食を満たす木の実が豊富にあることは事実です。他の公園で木の実が生る木々の数を調査したことは有りませんが。虫が少なくなる冬場の野鳥の命をつないでいるのは木の実が大きな役割を担っていると思います。

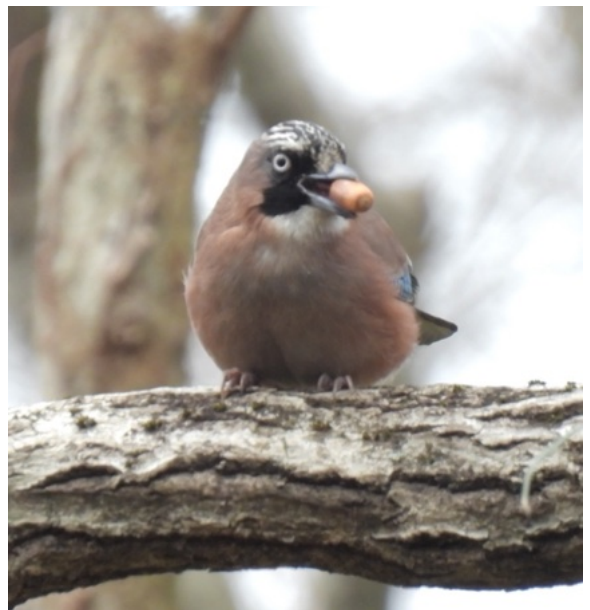
当公園は、2007年頃から公園内の一部でアズマネササや木々を取り払い草原を復元する活動を継続してきたことが、様々な昆虫や動物が集まる環境を構築できたと思います。

NPO 法人こんぶくろ池自然の森が目指す生物多様性が昆虫やクモに優しい草木の成長を育み、良好な自然環境の循環が多様な野鳥が集まる要因と考えます。

今年、当公園には非常に珍しい野鳥である「オオルリ」と「サンコウチョウ」がやって来ました。野鳥に優しい自然環境を継続できればこれからも多くの野鳥がやってくるのが期待でき今後とも野鳥観察・撮影が楽しみです。



ヤマガラ



カケス

「イボタロウ」とは何だロウ

橋本谷 弘司



枝についたイボタロウ
(生態園で撮影)



イボタノキの樹形



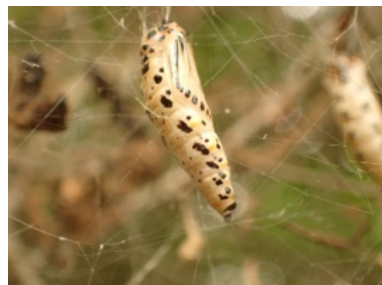
イボタノキの花



イボタノキの実



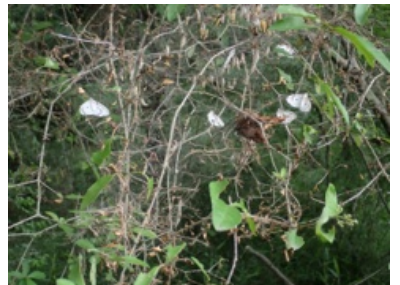
ホシシャクの幼虫



ホシシャクの蛹



ホシシャクの成虫



食いつくされた葉

当園のワタラセツリフネソウエリアの北側や、クロツバラ付近などにイボタノキがあります。落葉低木で、5～6月ごろ白い小さな花を付けます。果実は10～12月に紫黒に熟します。

この木に寄生するイボタロウムシの幼虫がイボタノキの枝に密集してロウ状の物質を分泌します。イボタロウムシの幼虫は、このロウ塊の中で外敵に襲われなく安心して蛹になり、9月ごろ羽化して白ロウに小穴を開けて外に飛び出します。枝に残った白い塊を削り、加熱してロウ分を溶かし、布で濾してから冷やして凝固させたものを「イボタロウ」と言います。イボタロウは、止血、強壮などの薬用のほか、ろうそくの材料、家具の艶だしや戸の滑りをよくするために使われています。

かつては会津地方などが生産地でしたが、現在は中国の四川省を中心に生産されたものを輸入しています。イボタロウムシを人為的に増やし、多量のロウを生産しています。

(あきた森づくり活動サポートセンターの資料を参考にさせていただきました。)

このイボタロウは当園では確認されていませんが、シャクガ科であるホシシャクの幼虫はイボタノキの葉を食草にして、クロツバラ付近のイボタノキの葉を食べつくしています。幸いにその木は枯れるまでに至っていませんが。

編集後記

今月号でこのこんぶくろ池通信が第 150 号となります。

2014 年 4 月に準備号として第 0 号を発行してから、2022 年 8 月に第 100 号を迎え、今月新たな節目を迎えました。

100 号の際にも書きましたが、当初は毎月書くネタがあるのかと心配もしましたが、皆様のご協力のおかげで一度もスキップすることなく毎月調査報告、イベント報告、こんぶくろ池自然博物公園への各自の思いや、コラム、短歌・俳句、新規会員紹介など、直接、間接に公園愛あふれる記事を皆さんから投稿いただいています。

また新しく会員になられた方からも、新しい視点での感想やご提案が寄せられることもこれまで続けてこられた理由だと思います。

普段の里山・調査活動での成果を会員間で共有することはもちろん、外部の方にも読んでいただくことで、我々の活動内容を知っていただく良いツールだと思います。

今後も皆さんの投稿を期待するとともに、このこんぶくろ池通信をより良いものにしていくためのご意見などありましたら、よろしくお願いします。（萩原秀夫）